

## 令和5年度第2回鎌倉市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年(2023年)11月16日(木)午後2時58分から午後3時32分まで
- 2 開催場所 鎌倉水道営業所2階会議室
- 3 出席者 松尾市長、高橋教育長、下平教育委員、朝比奈教育委員、長尾教育委員、林教育委員
- 4 関係者 共生共創部長、教育文化財部長、教育文化財部次長、  
教育文化財部次長(兼学校施設課長)、
- 5 事務局 共生共創部企画課長、企画課主事、  
教育文化財部次長(兼教育総務課長)、教育総務課課長補佐、教育総務課担当職員
- 6 傍聴者 1名

【市長】それでは、少し時間前ですが、始めさせていただきます。

本日は御多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただ今から、令和5年度第2回目の鎌倉市総合教育会議を始めます。本日は、学校整備計画の取組状況について、報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

傍聴にお越しいただきました皆様、ありがとうございます。会議の傍聴につきましては、鎌倉市教育委員会傍聴規則を準用いたします。皆様の御協力をお願いします。

それでは、まず事務局から発言をお願いします。

【事務局(企画課長)】共生共創部企画課長の安富です。

まず、本日の配布資料は、令和5年度第2回鎌倉市総合教育会議の次第にある資料1鎌倉市学校整備計画(骨子)となります。

資料としては次第も含めまして、2点となっています。御確認いただきますようお願いいたします。

事務局からは以上です。

【市長】それでは、次第に沿って進めます。

報告事項(1)の「学校整備計画の取組状況について」、学校施設課から説明いただきます。

【教育文化財部次長(兼学校施設課長)】教育文化財部次長兼ねて学校施設課長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

「学校整備計画の取組状況について」、ご報告します。

本市の学校施設は、一番新しい学校が平成28年度に竣工した大船中学校となりますが、多くの小学校・中学校は昭和40年代から50年代に整備された建物で、中には築年数が50年を超える建物もあり、日々の修繕等により適切な教育環境の維持に努めているものの、多くの学校が抱える老朽化の問題などに対応するためには、建

替えや長寿命化等について計画的に進めていく必要があります。

そこで、現在、令和5年度中の学校整備計画の策定に向けた検討を進めていることから、本日は、その取組状況について、お手元の資料「各種鎌倉市学校整備計画骨子」に基づいて説明させていただきます。

1ページ下段から2ページにかけて御覧ください。計画の策定にあたっては、市内の市立小中学校全 25 校を対象とし、計画期間については40年としますが、児童生徒数や教育内容、社会状況の変化等に対応できるよう、10年、あるいは必要が生じた時点での見直しとなるよう、検討を進めています。

次に、3ページから4ページの学校施設の保有状況を御覧ください。本市の学校施設については、施設の老朽化だけでなく、学校設置基準等で求められる面積に満たない校舎や体育館を有している学校もあるのが現状です。

次に、6ページから8ページでは、(1)の施設の老朽化への対応から始まり、全部で7つの項目について現状と課題を整理しています。なかでも、(2)の児童生徒数の変化と今後の予測にあるように、これまでは人口減少の傾向が進む推計となっていたことから、児童生徒数も減少していくということで進めていきましたが、現在は児童生徒数の回復・横ばいという傾向を受け、現時点では全25校を対象とする計画づくりとしています。

9ページから11ページにかけて、学校施設整備にあたっての考え方として、学校施設整備に向けた基本的な考え方と地域拠点校の2項目について整理をしています。

次に、12ページの計画・設計に向けた基本事項を御覧ください。各学校の施設規模にはばらつきがあり、普通教室の面積の最小と最大の差が約10㎡あるといった現状等も踏まえ、標準的な仕様を定めることや施設整備に際しての配置上の工夫についていくつかのパターンを示しています。

最後に、13ページから16ページにかけて、実際にどのように整備を進めていくかについてをまとめています。

まず、整備の優先順位をどの様に判断していくかについて、指標を設定することと、築年数に応じた3つの区分を設けることとしました。

この検討に当たっては、長寿命化を基本に整理を進めてきましたが、国庫補助の対象となる長寿命化改良事業については、補助要件として整備後30年以上の使用を予定する必要がありますが、既に老朽化が進んでいる建物については、長寿命化を図ることに一定の限界があることから、2041年までに築70年となる建物を有する学校については、建替えを前提とする区分Aとしています。

次に、築年数の古い建物を有する学校を区分Bとし、長寿命化を前提に検討を進め、改修により教育環境の向上が期待できると判断した場合には長寿命化改修を実施しますが、そうでない場合については建替えを含めて検討することとします。

3つ目の区分Cについては、築年数の新しい校舎を有する学校となり、定期的な改修工事などを行うことで、長寿命化を図っていくこととします。

また、学校整備には、法令の制限や土地利用上の制約、地域性の反映等について、学校ごとに異なる検討が必要となるため、15ページでは、こうした状況を踏まえ、基本構想等の構想期間を2年間、設計期間を2年間、工事の期間を2年間と想定し、1校の整備を進めるために6年を1つの事業サイクルとして、整備スケジュールについても整理することとしています。

さらに、整備には多くの費用を要することから、16ページにおいて、コスト縮減についても積極的に検討を進めることとしています。

今後は、これまで説明してきました骨子に沿って、計画素案を取りまとめていくこととなり、11月21日開催の外部の有識者等からなる鎌倉市学校整備計画検討協議会において、計画素案の内容について議論を行ったうえ

で、12月から1月を目途に計画素案に対するパブリックコメントを実施し、いただいた意見等を反映しながら、令和5年度末までに計画策定を行い、来年度からは、計画内容の実現に向けた検討へと進んでいきたいと考えています。

以上で説明を終わります。

**【市長】**ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問はありますでしょうか。

**【教育長】**骨子ということで、これからますます有識者の意見を聞きながら、進めていきたいと思っています。

これから児童・生徒数がどのような見込みになっていくのかで様々なシナリオがあるので、現実的な解一つ探ったということ、今の学校の老朽化の具合でA区分、B区分、C区分という形で何年後に必要な改修等が出てくるのかということ整理し、これを基礎にしながらさらに詰めていきたいと思っています。

もう少し目線をあげて考えたときに、未来の子どもたちが学ぶ場なので未来の学校にならなければいけないと思いますので、今の考え方で整理しきるのは、危険だと思います。例えば廊下があって、教室があるという施設だけでは違うと思います。そこは市全体の公共施設をどうしていくかという議論とも整合性をとり、複合化という観点との連動を図っていく必要があります。

未来の学校は個別最適で協働的な学びが進んでいくと思いますし、デジタルを使った学びが進んでいくと思いますので、そこでふさわしい学校施設になっていないといけないと思います。

一方で、20年後、30年後の世界はなかなか見えにくいこの時代の中で動くためには可変性や柔軟性を持たせなければいけません。

具体的に、現状で考えると学びの多様化学校です。昨日委員の先生方にもご審議いただいて、分校型にするということで発表いたしました。そこでも子どもたちと一緒に作っていく場にしたいと思っています。大人がデザインするのではなく、子どもたちの様子を見て、ここに間仕切りが欲しいとか、ここのスペースを少し分けて1人で集中できるようなスペースが欲しいなど、子どもたちの学び方や先生方のやりたいことでその場の持ち方も変わってくると思います。その可変性や柔軟性をいかにビルトインできるかは有識者のご意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

それから、安心安全の観点もとても大事だと思っています。今の市役所の移転についても様々なご意見を受け止めながら前に進めようとしているなか、子どもたちが海に近い鎌倉で災害などの最悪の事態に陥ることが今にも来るかもしれない時に、子どもたちを守り切れるかという観点は大事にしなければなりません。

そこは骨子にすでに記載がありますが、より突き詰めて子どもたちの生命を守り抜くということは大事にしたいと思っています。

また、安全安心だけではなく鎌倉らしさを入れられるようにしたいと思っています。共生社会を掲げている鎌倉のバリアフリーや、自然エネルギーの活用であったり、鎌倉らしさが見えるような整備計画になるような思想であったり、目指すべきところを総論に書き込んで、そのビジョンのもとに整理していくことに力を割いていきたいと思っています。

よろしく申し上げます。

**【林委員】**教育長の話の続きですが、新しい校舎になった御成小学校で教頭をしていた時が、オープン教室というコンセプトがちょうど崩れかけてきた時でした。

学級数が増えて、当初のコンセプトで校舎が持続できなくなり、フリーの教室が普通教室に変わってしまうなどの過渡期を見えています。

私が教頭でいた3年間で子どもが 100 人くらい増えました。初めに来た時には総合をするために広いフリーの場所があり、そこにロッカーや教材を置いてデザインをするなどの発表もしていましたが、今はエアコンがついたこともあり、ドアがついてフリーの部屋が教室になるような、最初に理想としていたものが崩れたということが残念です。やはり児童数増加の流れのなかで読み取れなかった部分があったのが残念な気持ちでいます。

教育長がおっしゃられた可変性のあるものは、これからの建物に必要な部分であると思います。

あと、山崎小学校で校長時代に東日本大震災がありました。あの時に子どもたちは校庭にすぐ集まったのですが、2回目の揺れで校庭がものすごく揺れて、地盤が非常にゆるいということその時に初めて体感しました。子どもたちはつかまるところもなく、しゃがんでいたのですが、地べたにつかまるような状態で、私はここに集めてよかったのかと、一瞬感じたことが忘れられません。

校舎をこれから建てるには耐震と、合わせて地盤が緩い学校は地震があったときに子どもたちをどこに集めて、それが体育館であればより耐震性のあるものにしていかなければいけないなど、過去の経験のある方たちにその時の状況をリサーチしていただき、改善できるような建物や場をぜひ考えていただきたいです。

聞き取れる人間がだんだん減ってきています。建てるのは何年か先かもしれませんが、聞き取りだけはなるべく早くしていただけたらと思います。

**【下平委員】**市の総合計画審議会でも、学校施設に関して熱心に話し合ったことを覚えています。その時からまだ3年ぐらいだと思いますが、その中でもずいぶんいろいろ変わってきている気がいたします。長いスパンでの計画になりますので、先ほど教育長もおっしゃいましたが、しっかりと現状と未来を見据えて、その折々に柔軟に見直しながら進めていくことが必要だと感じます。

改めてこの資料を見ると、学校の設置基準をみたしていないことが結構あるようです。築 70 年をまもなく迎えようという区分 A がかなりあります。

現実問題としてお金もすごくかかると思います。鎌倉市はなかなか厳しい現状で働き手も少なくなって高齢化が進むような先行きでそのあたりの見通しも結構厳しいものがあるのだらうと思いついていました。

**【企画課長】**昨年度の実施計画の見直しを行いました。当然学校の長寿命化対策というのも、もちろん整備計画ができる前ですが、その時点で想定するものが出来るように長期の事業計画を取り組んでまいりました。

今回また整備計画が出来るなかで、内容が変わってくるものについて、当然必要な課題ととらえておりますので、企画課としてもしっかりと分析していきますのでよろしくお願いします。

**【下平委員】**ありがとうございます。

**【市長】**他の公共施設の再編と相まって、お金がかかることではあるのですが、そのあたりは中長期でも試算しておりまして、財政が破綻するということは決してないように計画を作ってまいりたいと考えていますので、よろしくお願いします。

**【長尾委員】**鎌倉市の流入流出の人口の推移は私も一番気になっております。これを鎌倉市としてどの方向にも

っていくのかという意味を含めて、やはり見通しが非常に立ちにくいのですが、私たちがこの方向に持っていけるという試算があるなかで、学校整備計画も連動できれば良いかなと思いました。

先ほど林先生もおっしゃられた通り、この 50 年で変化があったかと思いますが、ここからの 50 年はもっと変化すると思われ、ハードだけでもを語る時代ではなくなり、ソフトをいかに上手くできるような、先ほど可変性というお話がありましたが、未来の建物ではないかと思っています。

バリアフリーなのか、壁がないのかわからないのですが、このあたりをぜひ有識者の方のご意見も伺いつつ、今の建物がそのまま綺麗になっただけではなく、鎌倉の未来の子どもたちのためのワクワクする事業になったら良いかなと思いました。

あと一点、保護者の意見ですが、建て替える時にプレハブになるという時期に当たってしまう児童が本当に可哀相だと感じます。6年間とか3年間9年間のなかで何年間かプレハブを校庭に建てるために校庭が使えないような不自由な時期に当たってしまう児童も必ずおりますので、その中でもいかに充実した学校生活が、教育課程が送れるかということも加味していきたいと感じております。

よろしく願いいたします。

**【教育文化財部次長(兼学校施設課長)】**先ほど説明を駆け足でお話しましたが、ご懸念のところに少し触れさせていただいているのが、12 ページの下の部分の施設サービスの整備方針という(2)のところで、まさに今お話しされていた、仮設校舎を建てないで今ある校舎の向かい側に新しい校舎を建てる事が出来れば検討したいということは考えています。

当然それにより仮設のお金をかけなくてよくなるというコスト的なメリットもありますし、授業を止めないというメリットもあります。ただ鎌倉の学校の敷地の形状ですとか大きさですとか、法令の規制等でそれが許されるかどうかという事もありますが、それは学校ごとに状況が違いますので、細かく状況を見ながら一番良い形の進め方を検討していきたいと考えます。

**【長尾委員】**ありがとうございます。

**【市長】**具体的に検討しだすといろいろと制約はあるとは思いますが。

**【教育文化財部長】**一時的にはどうしてもグラウンドが狭くなるという事象は発生する可能性はあります。

**【林委員】**大船中学校が建て替える時に、私はちょうど山崎小学校にいたのですが、1学年だけ移動作業を全部やったのにも関わらず教室には入れず、卒業式だけ辛うじて体育館で行うことができたということがあり、当時、とても残念無念だと保護者と子どもたちが言っていました。

やはりプレハブ校舎は子どもたちが落ち着かなくて結構ご迷惑をおかけした学年があったように聞きました。私は山崎小学校しか知らないのですが、山崎小学校を建てるときには、地盤がすごく緩いためプレハブを建てたら地震があった時揺れが怖いという感じがしています。

**【教育文化財部長】**仮設であっても、どこまで地盤に杭を入れるかということも考えながらやらなければいけないとか、それぞれ地盤に対応して考えていきたいです。

【林委員】非常に地盤が固いところを探すというのはすごく大変な作業なのだろうなということはわかります。

【長尾委員】基本は今の土地ですよ。例えば山崎小学校は今の土地に建て替えるという、それはまたこれからですか。

【教育文化財部長】それは今いろいろ考えているところではありますが、今の土地でも林委員からおっしゃられたことも考慮しながら対応していきたいです。

先ほど工期のところでお示したのですが、御成小学校はないですが、第一小学校あたりでももう少し発掘調査などで時間をとることが出てくる可能性はあるので、もう少し長くなるが出てくると思います。

【下平委員】本当に長い目でみると中学校は近々いらなくなるのではないかと言うような論議も一部にはあります。中学の先生も公立中学もなくなるのではないかという見通しもあるなかで、やはり今の数のまま同じように推移していくということを想定してやるのか、それとも思い切ってそのような未来を予測しながら考えていくのか、その辺の意見は何かでていますか。

【教育文化財部次長(兼学校施設課長)】具体的に今の公立の小学校中学校が制度的になくなるかということまでは想定していないのですが、先ほどからお話が出ている児童生徒数が減ることで適正規模が維持できなければ、統廃合を考えていかなければならないというご意見もありますし、それ以外に社会状況などいろいろ変化がある中で、40年間という計画期間をただ定めて硬直化させるのではなく、10年ごとの見直しという事などを考えていますので、今お話されたような状況が見えた時に、どこかの中学校は整備をしないということにシフトするのかというような事はその時点でまた検討になると思いますが、今の段階ではそこまでは考えていません。

【朝比奈委員】御成小学校は失敗例になるのでしょうか。

【教育長】林先生からもお話があった御成小学校のことですが、当時オープンスペースが流行りというか、こういうのは良いよねという議論があったと思います。それは学級という枠にとらわれず、または総合的な学習の時間というものを充実させるためになど、いろいろな教育的なコンセプトからこのようなものがデザインされてきました。

それはすごく正しい意見だったと思いますが、実際には子どもたち、先生にしてみると、少し使いづらさであったり、現実の子どもたちの増加などといった課題があって、難しさが出てきたということでもあります。

逆に言えば、今まさにオープンスペースのような発想が施設の世界で言われ始めていまして、すごく時代が早かったのかなと思います。やはり今やろうとしている個別最適で協働的な学びですとか、主体的対話的で深い学びというのをやろうとしたときにはそういった施設は必要になるのだと思います。

可変性であったり、どのような教育制度仕組みになっても、可塑性があるようなものというのはある程度やらなければならないと思います。

そのため、このようなものだというように決めてしまうと後で厳しいと思いますので、例えば先ほど学校施設課長が説明したような校庭と校舎も四角四角でこのようなモデルをおいていますが、本当にそうなのだろうかと思いません。

我々は結構学校施設を四角で全部のブロックを考えてしまうのですけれど、今、全国に出来ているいろいろな

プランであったり新しい学びの場は、結構丸とか弧とか曲線を基礎にしている、そのほうがいろいろなところと繋がりがやすかったりするというのがあります。それもやはり教育そのものが変わっていかねば使いにくい施設だというように終わってしまい、ニワトリ、たまご関係があります。

教育を変えていくところと、施設を変えていくというのはまさに皆さんの意見にもあったように一体で考えていかねばならない、ただそれさえも変わっていく可能性があるのも、その後また使いにくくなってきたというようにならないようにしなければならなりません。

私もしっかりと考えたいと思います。かなり悩んでいる全国の自治体や先輩方がいるので我々もその辺はしっかり勉強しながら、謙虚に描いていければと思います。

今度、学びの多様化学校も由比ヶ浜に建てますが、技術的にいうとスーパープレハブといいますか、しっかりした作りになったり、2年というスパンも作り方次第で少し短縮したり、機動的に使える施設ができ、費用的にもだいぶ安くなるということがあります。全部それにするという話ではないのですが、そのような新しくできたものや技術は取り入れていかないといけないし、何十年という期間中に建設業界にもかなりいろいろなイノベーションが残っていくと思いますので、今は読めないのですが、適宜柔軟に取り入れるようにしなければいけないと思います。

福島の双葉町という、原発がある町で、唯一地元で学校再開できていない町ですが、いわき市というところにスーパープレハブの学校を置いて、12年間そこにいるのですが、そこはがっちりしたものを作ったので、今も快適に新築したぐらいのイメージを先生方も子どもたちももっています。これからどんどん日本全国の学校老朽化が問われていくので、そのようなやり方もあると思っています。

【林委員】教育の流れというお話でしたが、御成小学校の時を思い起こすと先生方の考えで作ったということではなかったと思います。

御成小に異動されてきた先生方が、箱型の教育では難しいと言われたのですが、どうするのかというと、やはりこれからの未来を考えて行うときに子どもたちと関わるのは教員なので、「この様な校舎ではこのような授業ができる」というようなことを並行して考えていかないと、出来上がった校舎に箱型の授業を入れても絶対にできないと思います。

オープンスペースのときも、隣のクラスは静かに勉強して、隣のクラスはガチャガチャやっていたら、お互いに授業が難しい。そのため、全クラスが算数なら算数にして、苦手な子は隣のクラスの算数に行っても良いようにすれば良いのではとアドバイスするのですが、先生方が真面目なのでうまくいきませんでした。

これから新しい形が出来ていき、ハードとソフトも一緒に変わっていくということで、先生方の考え方、希望などもリサーチしていただくと、より良いものが出来るのではないかと思います。

【市長】難しい計画づくりであったものをここまで高めていただいて進めていくというところで、だいぶ先が見えてきたのかなと思います。ご苦労様でした。これからはしっかりと基本にしながら、さらに前進できればと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、予定している議題は以上で終了になりますけれども、この他に皆様から何かございますか。

(意見なし)

よろしいですか。では事務局から何かありますか。

【事務局(企画課長)】本日いただいた意見を踏まえて教育委員会を中心に引き続き進めてまいります。

ありがとうございます。

それでは、これもちまして令和5年度第2回鎌倉市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。